

第47回 地域協議会（地域医療支援委員会）議事概要

【日時】平成30年1月22日（月） 19:30～20:00

【場所】人吉医療センター3階 講堂

【出席者】岐部 明廣（人吉市医師会会長）
山田 和彦（人吉市医師会副会長）
近藤 浩之（球磨郡医師会副会長）
犬童 裕成（球磨郡医師会理事）
河内 謙介（西諸医師会理事）
湯本 光一郎（人吉市歯科医師会理事代理）
山村 礼二（球磨郡歯科医師会理事）
村田 圭介（人吉球磨薬剤師会会長）
緒方 敬子（熊本県人吉保健所）
告吉 眞二郎（人吉市健康福祉部部長）
大瀬 敏克（利用者）
大竹 秀幸（人吉医療センター副院長）
入部 直子（人吉医療センター看護部部長）
作元 功（人吉医療センター事務部部長）
黒木 美佐（人吉医療センター総務企画課課長代理）
山田 一裕（人吉医療センター医療福祉連携室）
宮原 由佳（人吉医療センター医療福祉連携室）

（敬称略 計17名）

【概要】

一、開会（事務局）

二、議題（議長）

1. 登録医承認（事務局）

登録医、新規登録0名、登録削除1名、現在登録医数245名
→全会一致で承認。

2. 前回協議会回答（事務局）

・救急隊への要望について

（前回人吉市医師会からの要望：転院搬送の際、救急車に収容してから出発するまでに時間がかかっている。救急隊のバイタルチェックなどのマニュアルがあるかと思うが、バイタルチェックは搬送元でも行っているため、速やかに出発してほしい。同医師会でも機会があれば話したいと思うが、人吉医療センターでも救急隊との話し合いの機会があれば出してほしい。）

→当院で定期的に救急隊との事後検証があり、救急隊に確認、病院によってはバイタルチェックの情報をもらえないこともある。また人吉医療センターの救急医師からもバイタルを必ず聞かれるため、全例車内収容時にバイタルチェックを行っている。今後は、救急隊の中で協議していくとの回答であった。

岐部議長）一般的にはバイタルチェックは必要だが、疾患によっても状況が違う場合もあり、その場合そのまま搬送も必要。

・熊本県メディカルネットワークについて進捗状況報告（事務部長）

12月にJCHO本部に病院会計から医師の会費を支出できるかと提案し、了承を得られた。今後の予定としてはまずは下川先生が入会、利用しながら全診療科を対象として進め、パソコンや

インターネットの環境を整えるという手順で進めていきたい。

岐部議長) 先日あった水俣医療センターの研修は大変参考になった。当院もいつでもスタートできるように患者の同意は多くとっている。医療センターでは、ハード面の準備が必要ということで電子カルテとつなげることはできないのか。

事務部長) 電子カルテのパソコンの中に入れることができない。本部からのセキュリティの問題で、別にパソコンを準備しないといけない。

山田議員) 厚労省の方針ではネットワークでの共有化であるため、理解してもらわないといけない。

大竹議員) 同じパソコンでやれないと効率も悪い。当然患者さんも自分で情報を当然みれないといけない。

山田議員) ネットワークを活発にしていくために、もし必要であれば、県医師会から日本医師会に上申し、JCHO 本部と協議することもできる。

事務長) セキュリティ上、熊本メディカルネットワークは専用回線で行っているため、問題ないと思われるが、今後協議していかないといけない。

山田議員) メディカルネットワークはセキュリティが厳しく使いにくいところもあり、逆にいうとセキュリティ上は問題ないと思う。

3. 要望・ご意見 (球磨郡医師会から 近藤議員より)

①情報提供、お知らせ

地域包括支援センター、訪問看護ステーション、行政、介護、施設とも連携して行動しているため、紹介した患者について返してもらえば在宅医療、訪問診療、看取り、緩和医療、訪問看護なども行う。

②住み慣れた自宅での療養が推進されているので、急性期を脱して病状安定すれば、速やかに紹介した主治医に患者を戻してほしい。

→逆紹介を推進する。もし当院から別の医療機関に転院することがあれば転院した医療機関にもかかりつけ医の逆紹介を依頼していく。

③人吉医療センターで健診を受けた人が紹介状をもらった方が、直接受診しようとする「かかりつけ医から紹介状をもらって受診するように」といわれ、書いたことがある。との意見有、このエピソードの確認とその場合、紹介状が必要か。

事務局) 健診の紹介の種類によるが、例えば乳腺異常など専門科の受診が必要な場合は受診してもらっているが、脂質異常症や高血糖、高血圧などの生活習慣に繋がるものについては近医を勧めている。

犬童議員) 紹介状の中身までは空けないと分からないと思うが。

事務局) 患者さんには健診の結果票を見ながら連絡してもらい、内容は把握している。

犬童議員) 結果について健診センターではどのような説明をしているか。(「今回何に異常があって、この内容であれば近くの病院でも大丈夫ですよ」など) また、人吉医療センターの健診からの紹介状がある場合紹介がいるのか。

事務局) 患者さんから連絡があった場合、当院健診からであれば電子カルテで結果を見れるのでその際に内容に応じた対応を行っている。もしかかりつけがあれば、まずは主治医の先生に相談するように説明している。

犬童議員) 当院もかかりつけとして来ていただく分には特に問題ない。ただ、先生の中には「医療センターで内容が分かっているのであれば医療センターへ」と言われる先生や「地域のかかりつけ医だからと紹介状を書くよ」と書かれる先生もいた。

事務局) 患者さんに説明するときに「まずかかりつけの先生を受診し、その先生が専門医にみてもらったほうがよいという判断であれば紹介される」という説明をしているが、それを「紹介状を貰ってくるように」と理解されることがある。

犬童議員) 健診で紹介状出す段階で説明をしてはどうか。

山田議員) かかりつけ医があればよいが、かかりつけ医が無ければ一旦人吉医療センターで受けてもらいそこから逆紹介してもらえばどうか。

→院内で検討し、回答する。

犬童議員) 人吉医療センターにかかっている方がとびこみで風邪や腹痛で遠方だからと突然来られることがある。お手紙とまでは言わないが、お薬手帳は必ず持ってきてほしい。

→近医にかかる際には伝えるようにする。

村田議員) 薬局で発生した事例としてお薬手帳は、毎回同じものなので必要なかと言われることがあるが、残薬などみるときに手帳には処方した日付が入っているため有効であり、必要性を伝えてほしい。

→外来等で周知する。

4. その他

- ・人吉医療センターからのお知らせ (入部議員)

地域包括ケアシステムの推進がいわれており、これまで緩和病棟もあることからがん患者を中心に訪問看護室として活動していたが、4月から「人吉医療センター附属訪問看護ステーション」として立ち上げを行うことになった。がん患者などその他医療依存度が高い方を中心に行っていききたい、対象者がいれば相談をお願いしたい。

岐部議長) 小児科はどうか。専門性が必要となるので。

入部議員) 小児科もこれまで同様行っていく。

近藤議員) 看護師の数は?

入部議員) 3.8名で稼働予定。これまで140件/月行っている。患者数は約30名

- ・情報共有 (大竹議員)

小林市立病院に産婦人科医師が3-3.5日/w赴任、経膈分娩のみすると聞いた。残りを宮崎大学病院や都城や当院に応援要請が来ていたようだが、半年前の話であるが、どうなったのか。行政からの依頼が直接来たわけではなく、当院での応援は厳しいだろう。お産はどうなるかわからないため経膈分娩のみというのは難しいと思う。

三、閉会 (議長)

—以上—